

資料編

(1) 第3次士別市食育推進計画策定経過

1. 士別市食育推進市民会議における審議

開催時期	内 容
2018年6月11日	第2次計画評価の方向性について（第1回）
2019年2月25日	第2次計画数値目標評価について（第2回）
2019年6月26日	第3次計画の方向性について（第1回）
2019年10月15日	第3次計画案の確認（第2回）

2. 士別市庁内連絡会議における検討

開催時期	内 容
2018年6月4日	第2次計画評価の方向性について
2019年1月	第2次計画数値目標評価報告内容確認（書面）
2019年6月4日	第3次計画の方向性について（第1回）
2019年10月	第3次計画案の確認（書面）

3. パブリックコメントの結果

- ①募集期間 2019年11月22日（金）～2019年12月23日（月）
- ②提出方法 直接持参・郵送・FAX・メール
- ③結 果 意見なし

◇士別市食育推進市民会議委員

(敬称略 2019年4月1日現在)

区 分	氏 名	所属・職名等
委 員	谷川 敬一 (◎)	士別東高等学校校長
	杉本千加等 (○)	士別翔雲高等学校教頭
	加藤 孝	カトリック士別幼稚園園長
	佐々木くるみ	士別南小学校栄養教諭
	岩谷 孝二	士別市教頭会副会長
	中山 弘子	JA 北ひびき士別女性部
	山崎 和人	士別市農業青年団体 BLUE SEEDS 代表
	古旗 幸治	北海道全調理師会士別支部
	小柴 律子	士別消費者協会理事
	岩田 英子	士別市食生活改善協議会会長
	富長 有華実	一般市民
黒川 理恵	一般市民	
オブザーバー	渡部 倫克	上川農業改良普及センター士別支所長
	笠井 寛和	名寄市立大学保健福祉学部栄養学科講師
	馬淵 孝	名寄保健所企画総務課企画総務課長

(◎議長 ○副議長)

◇士別市食育推進庁内連絡会議委員

(2019年4月1日現在)

区 分	所 属・職 名	氏 名
委 員	市民自治部資源循環統括監	東川 晃宏
	経済部農業振興課長	藤田 昌也
	朝日支所統括監	長南 広基
	教育委員会学校教育課長	須藤 友章
	教育委員会学校給食センター所長	輿水 賢治
	健康福祉部保育推進課長	東川 由美
事 務 局	健康福祉部保健福祉センター所長	松ヶ平久美子
	健康福祉部保健福祉センター副長	川原 淳子
	健康福祉部保健福祉センター食育推進係長	丸 奈央子
	健康福祉部保健福祉センター食育推進係主任技師	高橋知加子

(2) 食育（第2次食育推進計画）への取り組みの評価

《士別市食育推進庁内連絡会議による評価総括》

士別市では、平成27年度から平成31年度までを計画期間とする「第2次士別市食育推進計画」を策定し、士別市の食育を総合的に推進してきた。

食の安全・安心や健康への関心が一層高まりをみせるとともに、さまざまな情報が社会に氾濫するなかで、食に対する正しい知識を得て情報を適切に活用できる力を身につけるために、関係機関との連携・協力のもと進めてきた取り組みを継続していくことが重要である。

今後とも、より多くの市民に食育の重要性が理解され、食育を市民運動として定着させることが必要である。

《分野目標に対する評価》

1. 健全な食生活の実践

分野目標①	ライフステージに応じた適正な食習慣を身につけ、心と身体の健康を育むための食生活を実践します。
各種事業を通じ、適正体重の維持や望ましい食習慣の確立、生活習慣病の予防・重症化予防、心身の機能の維持のための工夫について周知・普及を行った。	
(主な取り組み)	
・ 早寝早起き朝ごはん運動の推進、チャレンジスクール等の開催、高齢者学習授業等の実施（学校教育課、社会教育課、中央公民館）	
・ サフオークジム、サフオーク元気クラブ、サフオーク脳活塾の実施（いきいき健康センター）	
・ 特定健診、特定保健指導の実施（市民課・保健福祉センター）	
・ マタニティスクールや離乳食教室、幼児食教室の開催、乳幼児健診、食育出前講座の開催、しっかり野菜349gレシピの提供、食生活改善のための地区組織活動の育成・支援（保健福祉センター）	

2. 「食」を通じた家庭や地域との交流

分野目標②	食育の大切さについて理解します。
さまざまな経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができるよう取り組みをすすめた。	
(主な取り組み)	
・ 菜園作り、収穫体験、調理体験、季節の行事食の提供、子育て支援センターでの簡単クッキング、離乳食の試食と相談など（保育推進課）	
・ 農業学習、菜園作り、調理実習、栄養教諭による食育授業、ふるさと給食や季節の行事食の提供など（学校教育課・学校給食センター）	
・ スポーツ関係者を対象とした食の講習会開催（スポーツ課）	
・ 食育に関するイベントやセミナーの開催、高校生への食育出前講座開催、食生活改善協議会活動への支援（保健福祉センター）	

分野目標③	食事のマナーや作法を身につけます。
箸の持ち方や配膳の仕方などの食事マナーや作法について、日々の給食指導、家庭への情報提供をしてきたが、家族そろって食事をする機会の減少等の状況が引き続きみられるため、保育園や教育機関の取り組みを継続し、親が共食の意義や食事マナーについて関心をもち、家庭でも積極的に取り組むことができるよう働きかけをしていく。	
(主な取り組み)	
・ 給食指導、食育だよりや給食だより等による食事マナーや食育情報などの掲載、栄養教諭による食育授業の実施（保育推進課・学校給食センター）	
・ 食育イベントでの正しい箸の持ち方に関する周知・普及、食育の日に併せた市フェイスブック等での共食の普及（保健福祉センター）	

分野目標④	「食」を通じて、みんなと会話を楽しみます。
<p>家族規模の縮小が進んでいることと、ライフスタイルが多様化し家族と一緒に食卓を囲む機会が減少していることから、食を通じたコミュニケーションを図る場を今後も提供するとともに、一人で食事をする際に栄養面で配慮が必要な点等について普及・啓発が必要である。</p> <p>(主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園や子育て支援センターによるこどもや親を対象とした調理体験や簡単クッキング、保護者対象給食、おやつの試食会開催（保育推進課） 	

分野目標⑤	食べものに対し「もったいない」という気持ちや感謝の念を持ちます。
<p>食べものが、自然の恩恵の中で多くの動植物の命や人の手を介して成り立っていることを理解し、食べものに携わる人々への感謝の心を育む取り組みについて継続するとともに、食品ロスの削減に向けて取り組みをすすめる。</p> <p>(主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 菜園作り、鮭の解体、調理体験など（保育推進課） ・ 農業学習（学校教育課） ・ ごみ減量化懇談会、ごみ減量化環境フォーラムの開催（環境センター） ・ 「残さず食べよう！349運動～もったいないの気持ちを行動に～」の普及（保健福祉センター） 	

分野目標⑥	日本型食生活を実践します。
米を中心とした主食・主菜・副菜のそろった日本型食生活について、若い世代が学習する機会を継続して提供する。	
(主な取り組み)	
<ul style="list-style-type: none"> ・給食に日本食をとり入れる（保育推進課・学校給食センター） ・高校生への食育出前講座の開催（保健福祉センター） 	

3. 「食」を通じた食文化の継承

分野目標⑦	郷土料理・行事食などを次世代に伝えます。
地域の郷土料理や行事食は今後も家族規模の縮小などにより、世代間で継承されにくくなっていくことから、こどもの頃から食文化への関心を高める機会を提供するとともに、親にも情報を提供する。	
(主な取り組み)	
<ul style="list-style-type: none"> ・給食での季節の行事食提供、もちつき体験、給食だよりや子育て支援センター通信での行事食等のレシピ提供（保育推進課・学校給食センター） 	

分野目標⑧	農産物などの生産者と消費者との交流を図ります。
食育への意識を高めるために実際に農作物を育て、収穫体験をする場を提供すること、農業への理解を深め支援する気持ちを育むために、生産者と消費者との交流を図る取り組みをすすめる。	
(主な取り組み)	
<ul style="list-style-type: none"> ・菜園づくり、収穫体験（保育推進課） ・農業学習（学校教育課） ・イベント等での直接販売の機会の提供（農業振興課） 	

分野目標⑨ 地産地消や旬の食材を楽しみます。

身近な地域の産物を消費する地産地消は、安全・安心の面や地元の生産業を守り、輸送エネルギーを減らすという環境面からも重要な取り組みであるため、今後も積極的に推進する。

(主な取り組み)

- ・ 給食の地場産物の活用 (保育推進課・学校給食センター)
- ・ ふるさと給食の実施 (学校給食センター)
- ・ 6次産業化の支援、産直マップなど地元農産物等の情報発信 (農業振興課)
- ・ 産業フェアにおける「土別サフォークラム」羊肉や地元産牛肉の購入費用の一部助成 (畜産林務課)
- ・ ラブ土別・バイ土別運動推進事業の実施 (商工労働観光課)
- ・ 農畜産物加工体験交流工房、農産加工実習施設の利用促進 (農業振興課・経済建設課)

分野目標⑩ 「食」の安全・安心に関する知識を身につけます。

食品の安全性をはじめとする「食」に関する知識と理解を深め、自分自身でよりよい選択ができる力を身につけるための取り組みを継続する。

(主な取り組み)

- ・ 量目試買・小売物価調査の実施、消費者教育授業の開催 (自治環境課)
- ・ 給食における安全な食材 (道内・国内産、添加物の少ない食品) の積極的な使用 (保育推進課・学校給食センター)

(3) 数値目標（指標）の評価

指 標	第2次計画		現状値 (%)	達成度	参考	評 価	
	策定時 (%)	目標値 (%)					
①食育に関心を持っている市民の割合	74.9	80%以上	98.0	達成	1	食育についてなんらかの関心を示す市民の割合が大きく増加した。	
②食育を実践している市民の割合	42.8	50%以上	53.2	達成	1	目標は達成したが実践割合は関心度に比べて伸び率が少ない。	
③朝食を食べる市民の割合	幼児	96.6	100	94.9	未達成 横ばい	2	年齢が上がるるとともに朝食摂取率が減少する傾向が続いている。
	小学	95.5	100	95.4	未達成 横ばい		
	中学	89.4	100	93.2	未達成 向上		
	高校	80.8	100	86.9	未達成 向上		
	20代男性	48.1	60%以上	69.1	達成		
	20代女性	58.3	70%以上	75.2	達成		
④1日3回野菜を食べる市民の割合	16.1	25%以上	—	—	—	3次計画期間中に摂取量を調査し、量的指標にて評価予定。	
⑤家族と食事をする学生の割合	小学朝食	84.3	100	72.8	未達成 低下	1	すべての年代で低下している。孤食となっているか、家族と食事時間が異なるのかについては詳細不明。
	中学朝食	86.4	100	58.6	未達成 低下		
	高校朝食	55.2	60%以上	40.5	未達成 低下		
	小学夕食	100	100	93.4	未達成 低下		
	中学夕食	95.3	100	92.5	未達成 低下		
	高校夕食	92.0	100	83.1	未達成 低下		
⑥地元農畜産物を購入しやすいと思う市民の割合	17.9	25%以上	—	達成 向上	—	スーパーや直売所での店舗販売の増加等により向上と判断する。	

- 参考
- 1 平成30年食育に関するアンケート調査
 - 2 平成28年度生活リズムチェックシート
 - 3 平成29年全国学力・学習状況調査
 - 4 平成29年食事・生活習慣等調査